

地学オリンピック支援委員会

第13回議事録

2018年3月31日
委員長 田中 義洋

期 日：2018年3月24日（土）15：00 - 17：00

場 所：日本地質学会事務局会議室

出席者：芝川、田中、久田、平田、渡来（出席者5名、委任状提出4名で委員会は成立）

議 題

1. 平成29年度の活動報告
2. 第10回日本地学オリンピック予選問題の評価
3. 委員会規則の検討
4. 平成30年度の体制および活動方針の確認

詳 細

1. 平成30年度の活動報告

(1) 委員会を1度開催（第12回：1月9日）

(2) 第9回日本地学オリンピック予選の問題検討

委員会およびメーリングリストでの検討を経て、地学オリンピック日本委員会に「第9回日本地学オリンピック予選 試験問題に関する講評」を提出した。

(3) 第11回国際地学オリンピックフランス大会日本代表選手への支援（4月～8月）

地学オリンピック日本委員会の依頼を受け、通信研修および日本代表合宿研修に協力した。

(4) 広報活動

地質学会・愛媛大会の「小さな Earth Scientist のつどい」ポスター発表会場にて、フランス大会の報告と第10回予選のポスター掲載を準備したが、台風接近により、ESのつどいの中止に伴い、ポスターの掲載も実施できなかった。

(5) 各委員が携わった地学オリンピック関連行事の報告

地質学会・東京桜上水大会の「小さな Earth Scientist のつどい」ポスター発表会場にて、日本大会の報告と第9回予選の内容のポスターを掲示し、チラシなども配布した。

(6) 各委員が携わった地学オリンピック関連行事の報告

出席した委員からの報告はなし。円滑に支援を行うため、地学オリンピックのスケジュールに沿った予定表を作成し、委員間で情報を共有してはどうかとの提案があった。

2. 第10回日本地学オリンピック予選問題の評価

予選問題および芝川委員作成の出題と教科書との対比に関する分析資料をもとに意見交換を行った。今回は、「問題数が多かった」、「全体としては知識の有無を問う比較的単純な問いで構成されている問題という印象だった」、「一問一答のような形式で、前後の小問と関連した芋づる式の問題が減った点良かった」との感想や、一つの大問の中で複数の小問に同一の選択肢が用いられているとの指摘があった。また、日本代表の一次選抜試験としてどのような力を見ているかという方針を示すと、受験者にとっても指導する教員にとっても目標を設定しやすいのではないかとの意見

もでた。

これらの分析と指摘などをもとに、講評案を作成してメーリングリストを通じて委員間で検討を行ったものを地学オリンピック日本委員会に提出することとした。

3. 委員会規則の検討

本委員会の現状をもとに、会員名簿に掲載されている「一般社団法人日本地質学会地学オリンピック支援委員会規則」を確認した。委員の再任に関しては委員長から留任を依頼し、委員本人からの申し出がなければ再任することを了承した。

4. 平成 30 年度の体制および活動方針の確認

(1) 委員会の活動方針

今後も、地学オリンピック日本委員会からの要請に応じて支援を続けていくこと、および地質学会内での広報活動を継続していく方針を定めた。さらに、1の(6)でも指摘があったように、地学オリンピックの年間予定に沿った日程で活動を検討していくこととした。

(2) 次回委員会の日程

平成 30 年度の委員会は、開催を 1 回以上とし、次回はセンター試験後から年度末の期間の間で、多数の委員の都合が合う日で開催日を調整することを確認した。

以上